

令和 2 年 4 月 22 日現在

機関番号：10101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2019

課題番号：16K13217

研究課題名（和文）セルビアにおけるバナト・ブルガリア語の現状および言語変化に関する研究

研究課題名（英文）Language Change in Banat Bulgarian in Serbia and its Current Situation

研究代表者

野町 素己（NOMACHI, Motoki）

北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・教授

研究者番号：50513256

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、セルビアとルーマニアにまたがるバナト地方に分布する消滅危機言語のバナトブルガリア語の総合的研究である。具体的には、伝統的な方言の分析・記述の方法論に加え、言語類型論、言語接触論、地域言語学、歴史言語学、社会言語学などの複数の観点から分析を行うことで、従来記述・分析されてこなかったセルビア側とルーマニア側の言語的差異およびその形成過程、さらにそれを生み出す社会的背景について総合的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

バナトブルガリア語は1950年代にルーマニア側では調査が行われたが、セルビア側では調査がほとんど行われてこなかった。そのため同一方言に属すると指摘されてきたものの、その違いや言語の実態については不明であった。またルーマニア側でも社会主義体制が終わるなど社会言語状況に変化が起こったことを考慮に入れ、両国にまたがる地域で話される言語の実質的な違いとそれを生み出すメカニズムを明らかにした。加えて、バナトブルガリア語は消滅危機言語であり、その記述や分析は焦眉の問題であったため、本研究の成果は現地社会への貢献も含んでいると言える。

研究成果の概要（英文）：This research project explores the linguistic differences between the two major dialect areas of Banat Bulgarian, one of the less-studied endangered languages spoken in Romania and Serbia. The question is addressed from multiple perspectives, including language contact and the areal, historical, typological, and sociolinguistic approaches. By using the various approaches, the head researcher has successfully shown that the recent linguistic differences have emerged particularly due to the different ethnolinguistic structures of the Banat Bulgarian settlements in both countries and the entirely different language policies.

研究分野：言語学

キーワード：バナトブルガリア語 社会言語学 言語類型論 地域言語学 危機言語

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

バナト・ブルガリア語は、17~18世紀にブルガリア北部からルーマニア西部、18~19世紀にルーマニア西部からセルビア北東部に移住したカトリック・ブルガリア人の子孫の言語。話者数は約8000人だが、セルビア側では約500人で、多くが高齢者の危機言語である。数世紀の間、本土と異なる言語接触を経験した結果、本土のブルガリア語と違いが大きい。19世紀半にラテン文字の書記形態が現れ、文章語の伝統が今日まで断続的に存在する。社会主義時代に政治的な理由で研究が進まず、研究成果は少ないので研究に大きな可能性が残されていた。

バナト・ブルガリア語研究のうち最重要なのは Stojkov(1967-68)の共時的記述であるが、これは対象がルーマニア側バナトの方言のみであり、セルビア側の方言記述・分析は今もほぼ手つかずであった。最近の研究として Beceva(2007)の語彙研究や Tiseva(2010)の統語研究が挙げられるが、セルビア側とルーマニア側の異なる社会言語状況が十分考慮されず、言語接触論や地域言語学の理論的視点も欠き、通時分析もない。Sikimic(2007)、Vuckovic(2008)、Steinke(2010)の社会言語学・民族言語学的研究は重要だが、言語構造の研究ではなく、また個々の調査地点の固有性も十分に考慮されていなかった。申請者はこれまで主にセルビア側の Ivanovo を調査地とし、当該言語の衰退と再活性化に関する社会言語学的考察を行ってきたが、その成果を申請者編著の *The Palgrave Handbook of Slavic Languages, Identities and Borders*(2015)他に示すにとどまっていた。また、19世紀の記述と1930年代の文字資料を用い、当該言語の動詞体系の「簡素化」と「複雑化」(2015)の試論を行ったがこれもまだ深化させる余地があった。

2. 研究の目的

本研究は、セルビアとルーマニアに跨るバナト地方に分布する消滅危機言語であるバナト・ブルガリア語のうち、これまで研究が行われていないセルビア側の方言を記述・分析するものである。従来ルーマニア側のスタル・ビシノフ方言と同一に考えられていたセルビア側のヤシャ・トミッチ、ペロ・プラト、イヴァノヴォの3村の下位方言には、それぞれ類型論的に重要な差異が複数観察されたことを踏まえ、本研究では、インフォーマント調査と新たなアーカイブ資料(19世紀末~20世紀半ば)との比較を行い、各々の地点の固有の変化とその原因を、伝統的な方言学や文献学に加え、言語接触論、言語類型論、社会言語学、地域言語学の理論と知見を用いて複合的に分析し、当該言語の言語変化の普遍性と地域的特殊性を明らかにすることを目的としていた。

3. 研究の方法

セルビア側バナトに分布する当該言語は、ルーマニアのスタル・ビシノフからの移住者の子孫の言語ゆえ、現在も同一方言というのが通説である(Tiseva 2010)。だが、申請者の予備調査によると、Jasa Tomic、Belo Blato、Ivanovo の言語構造は同一ではない。特に Jasa Tomic はルーマニアやセルビアの他の村の方言と異なり、新旧の複数の複雑形態が認められた(例:動詞体系と格変化の部分的維持や複雑化等)。その一方で、Ivanovo は他と比べ高頻度の定冠詞二重使用、格変化の完全な消滅など名詞句中心に類型論的に重要な変化が見られた。Belo Blato ではいずれの特徴も観察されなかった。この差異は現時点で申請者が少数の母語話者を観察して得たごく一部の例にすぎず、また世代差を考慮に入れた調査が必要である。現段階では、これらの違いが比較的短期間に生じた主要原因として、1) 移住時期の違い(言語変化が生じる前かどうか)、2) 移住先の民族構成とその変化の違い(異なる言語接触のパターンと接触の密度)、3) 移住先の社会形態と社会階層の比率(各村の主要言語との関係と言語的同化のパターン)、4) 教会の言語的影響力の有無(規範言語教育の有無)が仮説として想定できるが、単一のアプローチでは証明が困難である。さらに、差異となる言語現象がいかなる過程で生じたか(古形の保持か言語接触による文法化かなど)を解明することも、従来の方言学の分析枠組みでは不可能である。本研究のチャレンジ性は、これらの課題を、郷土史などの資料も用い各村の特性を踏まえたうえで、方言学、社会言語学、言語接触論、言語類型論、地域言語学の知見を複合的に援用するという多角的なアプローチを用いた。

4. 研究成果

伝統的なブルガリア方言学は、共時的記述が中心だったが、本研究が提案するのは、従来の共時的記述に加え、歴史的資料と社会言語状況の言語外的分析、言語変化の理論的な知見を踏まえ、当該言語内の変化の原因解明を目指す「説明的な共時的・通時的方言研究」の一モデルであった。これに対し、本研究は、これまで研究が十分に行われてこなかったセルビア側のバナト・ブルガリア語の方言記述を行うことで既に大きい価値があるが、上記の複合的な分析枠組みを用いた結果、言語変化の事例研究として成果が広範囲に及ぶ分野横断的な貢献になったと言える。ブルガリア語研究やスラヴ語研究の重要な成果は無論のこと、さらに広く社会言語学、民族言語学、歴史言語学、言語類型論、言語接触論、言語進化論、地域言語学(特に地域として隣接、部分的に重なるバルカン地域)などの一般論に対しても新たな知見をもたらすと言える。これまで具体的な研究が行われることなく、歴史的な事実に基づき同一方言に属すると言われてきたセルビア側とルーマニア側のバナト・ブルガリア語の言語構造には、実際に上記のどの領域においても重要と考えられる多様な違いが存在し、その違いは、移住時の方言的屬性そのものは維持するが、ミクロレベルでは主に居住地における異なるバナト・ブルガリア人の比率と地域レベルでの言

語接触と社会的地位の高さ、マクロレベルでは異なる言語政策と両地域で異なる言語態度やアイデンティティの問題と結びついていることが明らかになった。また、ルーマニア側のバナト・ブルガリア人は、特に言語教育のレベルでブルガリア本国との繋がりが強いのに対し、セルビア側ではブルガリア語教育が始まったばかりであり、その影響はまだ見られないなど、現地レベルでは測れないブルガリア・ファクターが言語構造変化に影響をある程度与えることも明らかにされた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 5件/うちオープンアクセス 3件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Motoki Nomachi | 4. 巻 なし |
| 2. 論文標題 Is the Kashubian numeral jeden 'one' an indefinite article? | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Sbornik s dokladi ot trinadesetite mezhdunarodni slavistichni chetenija: Jubilejna nauchna sesija v chest na prof. Ruselina Nicolova (第30回国際スラヴ学会: ルセリナ・ニツォロワ教授記念講演会) | 6. 最初と最後の頁 140-149 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 Motoki Nomachi | 4. 巻 34 |
| 2. 論文標題 The Gorani people in search of identity: the current sociolinguistic situation among the Gorani community of the former Yugoslavia | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Slavic Eurasian Studies | 6. 最初と最後の頁 375-412 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |
| 1. 著者名 Motoki Nomachi and Wayles Browne | 4. 巻 なし |
| 2. 論文標題 Newly recognized old languages: Ausbau languages and their changes after disintegration of Yugoslavia | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 And Thus You are Everywhere Honored. Studies Dedicated to Brian D. Joseph | 6. 最初と最後の頁 1-16 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 Motoki Nomachi | 4. 巻 32 |
| 2. 論文標題 On Samuil B. Bernshtejn's unpublished Oчерk makedonskogo literaturnogo jazyka 'Outline of the Macedonian literary language | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Balkanistika | 6. 最初と最後の頁 199-224 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Motoki Nomachi, Bojan Belic | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Banat Bulgarian and Bunyev: A Language Emancipation Perspective | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Linguistic Regionalism in Eastern Europe and Beyond: Minority, Regional and Microliterary Languages | 6. 最初と最後の頁 67-85 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Motoki Nomachi, Bojan Belic | 4. 巻 17-3 |
| 2. 論文標題 Vojvodina 's Minority Languages in Light of a Language Emancipation Theory | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 Balkanistic Forum | 6. 最初と最後の頁 19-33 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Motoki Nomachi, Bojan Belic | 4. 巻 10 |
| 2. 論文標題 21st Century Standard Language Ideology in Serbia and Poland | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Belgrade English Language and Literature Studies | 6. 最初と最後の頁 177-191 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Motoki Nomachi | 4. 巻 17 |
| 2. 論文標題 Dative of external possession in Croatian: From an areal-typological perspective | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 Jezikoslovlje | 6. 最初と最後の頁 453-474 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------|
| 1. 著者名 Biljana Sikimic, Motoki Nomachi | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 Ezikovijat pejzazh na pametnitsite pri mnogoezichnite obshchestva: banatski balgari/palkeni v Srbija | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 Kultura | 6. 最初と最後の頁 印刷中 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 19件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 Evolution of the Kashubian Indefinite Marker (Compared to Other High-Contact Slavic Languages) |
| 3. 学会等名 BASEES 2018 Annual Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 Academician Samuil B. Bernstejn on the Macedonian Literary Language: A Long-Shelved Discussion Rediscovered |
| 3. 学会等名 Makedonistichki denovi vo MANU (Macedonian Studies days at MANU) (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi and Aleksandra Salamurovic |
| 2. 発表標題 Glagolitic Script in Contemporary Croatia: A Sociolinguistic Study |
| 3. 学会等名 21st Biennial Conference on Balkan and South Slavic Linguistics, Literature and Folklore (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Aleksandra Salamurovic and Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 Attitude towards Script and Script Revitalization: The Case of Glagolitic |
| 3. 学会等名 CLARC 2018: Perspectives on Linguistic Diversity (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 Czy kaszubszczyzna została emancytowana? (カシュブ語は解放されたか?) |
| 3. 学会等名 Debata pt. Języki narodowe Europy Środkowej i Południowej: Globalizacja, Ideologia, Tożsamość (公開討論: 中南東欧の諸民族言語: グローバル化、イデオロギー、アイデンティティ) (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 The Characteristics of an Indefinite Marker in Burgenland Croatian from a Typological Perspective |
| 3. 学会等名 XVI International Congress of Slavists (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi and Yaroslav Gorbachov |
| 2. 発表標題 Evolution of Existential Clauses in Polish: Historical and Typological Accounts |
| 3. 学会等名 13th Slavic Linguistics Society Annual Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Aleksandra Salamurovic and Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 Glagolitic Script in Media: Something Old, Something New |
| 3. 学会等名 Interdisziplinäeres Symposium. Von der Wiederholung zum Ritual (学際研究シンポジウム：繰り返しから儀式へ) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Aleksandra Salamurovic and Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 Script Revitalization? Reemergence of Old Scripts among South Slavs |
| 3. 学会等名 SRC 2018 Winter International Symposium. Languages Rising above Empires, Blocs, and Unions 1918-2018 (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 Grammatical Change in Kashubian as a Reflection of Sociolinguistic Change |
| 3. 学会等名 SRC 2018 Winter International Symposium. Languages Rising above Empires, Blocs, and Unions 1918-2018 (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 The Breakup of Serbo-Croatian and the Gorani of Kosovo |
| 3. 学会等名 Modern History Research Seminar (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 The Kosovan Gorani Ethnolect: A Borderland Enclave in Search of Linguistic Identity |
| 3. 学会等名 Special Seminar at School of International Letters and Cultures at Arizona State University (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 Language Emancipation of Slavic Literary Microlanguages |
| 3. 学会等名 Special Seminar at School of International Letters and Cultures at Arizona State University (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 If it were not for the Tito-Stalin Split...Samuil B. Bernshtejn 's unrealized version of the Macedonian Literary Language |
| 3. 学会等名 Seminar at Slovansky ustav AV ChR (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 Ob odnom obshchem sintaksicheskom izmenenii v zapadnoslavjanskikh jazykakh (西スラブ諸語におきた共通統語構造の変化について) |
| 3. 学会等名 Linguistic Semiar at the Institute for Slavic Studies at Russian Academy of Sciences (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 Can the Gorani language be planned? The latest sociolinguistic developments in the Gorani community of the former Yugoslavia |
| 3. 学会等名 Slavic Grad Colloquium (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi, Bojan Belic |
| 2. 発表標題 Language emancipation: Vojvodina's minority languages |
| 3. 学会等名 The 20th Biennial Conference on Balkan and South Slavic Linguistics, Literature and Folklore (国際学会) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi, Bojan Belic |
| 2. 発表標題 What is language emancipation? A case study from the Serbian Vojvodina |
| 3. 学会等名 Sociolinguistics Symposium 21 (国際学会) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Motoki Nomachi |
| 2. 発表標題 I am a Bulgarian, but I am not THAT Bulgarian |
| 3. 学会等名 The 11th Slavic Linguistics Society Annual Meeting (国際学会) |
| 4. 発表年 2016年 |

〔図書〕 計2件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Aleksandr Dulichenko and Motoki Nomachi | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 Slavic-Eurasian Research Center | 5. 総ページ数 452 |
| 3. 書名 Slavjanskaja mikrofilologija (スラブマイクロ言語研究) | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Dieter Stern, Motoki Nomachi, Bojan Belic | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 Peter Lang | 5. 総ページ数 347 |
| 3. 書名 Linguistic Regionalism in Eastern Europe and Beyond: Minority, Regional and Microliterary Languages | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|